
僕の花嫁は金髪です

QP

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の花嫁は金髪です

【Zマーク】

Z83300

【作者名】

QP

【あらすじ】

ドラクH5の主人公とジアンカについて私の妄想を詰め込みました。

嫁はフローラ、もしくはデボラ以外ありえないという方は読まないほうをお互いのためかと思います。
短いので暇つぶしにでもどうぞ。

主人公の想い（前書き）

暗いですでお気をつけください。

主人公の想い

ずっと、君にまた逢えることを願っていた。

君と別れてからいろいろなことがあったけど、また、君と冒険出来る日を信じていた。

だから、アルカバの宿屋で君がいないことを知つて、逢えなくて、悲しかつた。

でも同時に、すくほつとしたんだ。

僕は、あのころ、君とレヌールのお城を冒険したころの僕とは変わつてしまつたから。

変わつてしまつた僕を君に拒絶されるのが怖かつた。

天空の装備を探し、勇者とともに魔界へ行き母さんを助けること。別に使命を感じたわけでも、なんでもない。

ただ、他に生きる術^{すべ}が…

目的が分からなかつたから、父さんの遺言に従つただけだつた。使命だと言い張つて、現実から、罪から逃げるために。

父さんと母さんを尊敬しているし、愛しているのに…利用した。

他の人を見捨てて奴隸から逃げ出したくせに…

サンタローズの村をめちゃくちゃにしたくせに…

父さんを殺したくせに…

罪を償つことも、死ぬこともできずにいる。

弱くて汚い…

思いがけず再会した君は、眩しいくらい輝いていた。
明るくて元気でお転婆なところ、年上風吹かすちょっと偉そうなところや、情に厚くて涙もうことじろは相変わらずで、すく安心した。

変わったところと言えば…

すごく、綺麗な人になつたこと。

見惚れてしまうくらいに。

抱きしめられたときは心臓が止まるかと思った。

柔らかくて温かい感触は、他のどの女性とも違つて、すくべにキドキした。

強さをえ感じる君の美しさ、輝きは、きっと色々な苦労があつたからなんだと思います。

あまり愚痴つたり、暗くなつたりしない君だけ

おばさんも亡くなり、おじさんも臥せついて、女手ひとつで生活していることから

その苦労は多少は想像できる。

自分も大変なはずなのに、自分のことではなかなか泣かない君が、僕のことでも僕が生きていることじで、心から喜んで涙を見せる君に、僕は救われる。

幸せになつて欲しい。
笑つていて欲しい。

本気でそう思つた。

だから、この想いを封印することにした。

血と罪に汚れた僕の手で穢してしまわないように…

君と再会できて僕は救われた。

遠く離れた地にいても、同じ空の下で君が笑つて生きていると思えば、僕は独りでも生きていける。

それだけで、十分だから。

だからビアンカ、これ以上無邪気に僕のそばに来ないで。

君の存在をそばで感じるだけで、甘い蜂蜜の中に沈んでしまうやうだ。

このままだともっと多くを望んでしまう。

ブックルだけじゃなく、他の仲間のモンスターさえ受け入れてくれた君の優しさに期待してしまう。

君との幸せが許されるんじゃないかと…

主人公の想い（後書き）

私の中で主人公は結構、弱い人です。

片思い中でもビアンカに依存しちゃいます。

ビアンカがどこかで生きていたら自分も生きていける、的なところがそんな感じです。

拙いですが読んでくださった方ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8330o/>

僕の花嫁は金髪です

2010年11月10日22時55分発行